

『NEWデリバリー通信』 Vol 5

やっと待ちに待った春が到来。暖かな日がつづいてきて一安心といった感じですね、でも春になったらなったで花粉症に悩まされている方々も多いのでは...。自分のまわりにも結構いますが辛そうですね...、鼻かみすぎて赤くなって痛そうだしやたらとクシャミしてるしで...がんばってください！

発行元：大町デリバリーサービス松尾新聞店
 発行枚数：2600部
 発行日：不定期 宅配されています信濃毎日新聞・朝日新聞・毎日新聞・産経新聞といっしょにお届けしております。ご意見ご感想お待ちしております！

大町水物語り 『女清水と男清水』

『昔々、信州大町という集落がありました。村人たちがその真ん中南北に通る道をつくり、生活を始めた頃のお話です。その道の東側の村人は里山の居谷里という池の湧水を、西側の村人はアルプス白沢の湧水を生活に使い始めたのです。そして月日がたち、たくさんの子供たちが生まれました。しかし、東の集落は女の子ばかり、西側の集落は男の子ばかりが生まれたのです。いつしか村人たちは里山居谷里の水を女清水。アルプス白沢の水を男清水と呼ぶようになりました。これでは困ったと東と西の村人が話し合いをして、南北の道の真ん中に川を造り、



両方の水を合わせて流すことにしました。そして、更においしくなった水の流れる川の両側にたくさんの村人たちが集まるようになり、男も女もみんな仲良く幸せに暮らしましたとさ。。。』

現在、大町市内の水道水は、JR信濃大町駅前の大町商店街通りを境に、東側は女清水、西側は男清水を使っています。標高3000mのアルプスの上白沢（黒部ダム入り口の川の上流）の湧水が男清水。標高900mの里山居谷里の湧水が女清水。遙か昔から伝わる、この二つの不思議な湧水は現在もそれぞれ飲み比べることができます、商店街通りにあります「創舎わちがい」の中庭には男清水、その向かい側「塩入家具店」の前には女清水を飲めるようになっています。二つの水を合わせた水は縁結びの水、夫婦円満の水と呼ばれています。また、男の子が欲しいご夫婦は白沢の水『男清水』を、女の子が欲しいご夫婦は居谷里の水『女清水』を飲んでみてはいかがでしょうか？ 望み通りのかわいい子宝が授かる.....かもしれませんよ？ 大町では、『大町水物語りの会』が発足し塩の道博物館など9ヶ所に水飲み場が設けられています。

デリバリー松尾 今月お勧めの本



＜週刊かがくるアドベンチャー 全48冊＞が創刊。創刊号は290円、2号以降490円。週刊朝日増刊号では毎回人気の高い＜漢方2008＞税込み580円が、週刊朝日MOOKからは＜おとなの世界一周＞税込み1200円がそれぞれ出版。お問い合わせ・ご注文は 22 - 0553まで



お勧めのお店・一品!! 山紫水明の地、信濃大町 〈わちがい〉



「わちがい」は元々、江戸時代の大庄屋だった栗林家の旧居宅で、大町の典型的な京風町屋造りの建物です。店名はその屋号に由来します。店内のいたるところにある建具・調度は、栗林家及び大町の旧家からお借りしたものです。

<わちがい>お勧めの一品は、**黒豚丼（大町産）950円**。手間ひまかけて育った地元の大町黒豚を使った丼です。大町黒豚は肉質が柔らかく、脂身に甘味が強いのが特徴です。つけ汁にたっぷりひたして焼いたたれ味と、肉の旨味を味わえるあっさりとした塩味の2種類がございます。営業時間10:00～18:30、定休日・火曜日、 23-7363



新聞に載らない内緒話!

『さよなら 温泉小学校』先日、一通の案内状をいただいた。小学校の卒業式招待というもので、正確には「お別れ式」と書かれている。温泉地で有名な箱根に箱根町立温泉小学校という学校がある。その名の通り、校内には温泉が引かれ、子ども達がそれぞれ肌の触れ合う「教育」を受けてきた。在校生37人の、この小学校が3月19日に閉校になる。温泉小学校最後の卒業生を送り出す式が、つまり「お別れ式」ということになる。昨年、「閉校夢風船」と題して、連載を書かせて頂いた。小学校最後の運動会で、子ども達は100個の紙風船を、校庭から打ち上げた。風船には、学校が今年度で無くなってしまうこと、そしてこの風船を拾ったら連絡が欲しいとの短冊をぶら下げた。そのひとつは相模湾を見下ろす有料老人ホームにたどり着き、もうひとつは伊豆半島の西海岸のゴルフ場に届いた。他にも数カ所、風船は舞い降り、それを拾った人たちと、小学校の間で手紙、メールによるささやかな交流があった。そんなストーリーであった。「温泉小学校」というユニークな校名と、「学校が無くなってしまう」という興味から取材を申し入れたのが、昨年9月だった。学舎(まなびや)が無くなるという現実を学校関係者は、子ども達はどう受け止めてゆくのか。しかも、明治6年開校の学校が135年の歴史を閉じようとしている。原稿になりそうだと踏んだわけである。「学校が廃校になるようで」と取材を申し込んだら、ぴしゃりとはいえられた。「廃校ではありません。統合です。学校統合で、新しい学校が出来るのです」と教頭先生は言った。なるほど、廃校とは言葉の響きが悪い。しかし、それは学校関係者の、単なる表現上の見栄のような気がして「それならば廃校という言葉を使わないで原稿を書かせてもらいます。それでいかがですか」。そんな交渉で、昨年10月22日に同校を訪問した。その時は紙風船のことはまったく知らされていなかった。取材をしているうちに前述のストーリーが浮かび上がってきたわけである。紙風船を拾った人達を訪ね歩いて、なぜ風船が飛ばされたのか、そのいきさつを説明する立場にいつしか、なった。「いい話ですね」と誰もがうなずいてくれた。連載が終わった頃、温泉小学校の校長先生から電話をいただいた。その折り、ひとつお願いをした。「卒業式に出席させて頂けませんか。取材の締めくくりにしたいのです」。そう言っておいたのだが、雑用に追われ、そのことをすっかり失念していた。校長先生は私のお願いをおぼえてくれたのだろう。早速、出席の電話を掛けると、「あの記事、校内に掲示しました。子ども達も読んでくれます」と嬉しい言葉をいただいた。3月半ばの箱根は、桜の季節だろうか。37人の生徒達とともに、「さよなら」を言ってみよう。

信濃毎日新聞販売店ふれあい一声運動実施中!

信濃毎日新聞を取り扱っている店舗では、<ふれあい一声運動>を実施中です。具体的な活動として、集金さんや朝刊・夕刊配達員さんが、新聞が抜かれていない!いつもの時間に家の方がでてこない!電気がつきっぱなし!など、少しおかしいと思ったら専門社員さんへ報告、報告を受けた社員が現地に出向き、家人の安否を確認するという活動。配達や営業中に不審な人を見かける、お年寄りの徘徊を見つける、迷子のこどもを見つけたなどの場合、適切な部署(警察なども含めて)への通報や保護活動などを行っています。大町東部地区 松尾新聞店でもこの活動を続けており、残念な結果ではありますが、お年寄りの孤独死の発見が4件、不審車両の通報や酔って路上に寝ている方の保護等の活動結果となっています。私たちはこれからもこの活動を続け少しでも皆様方のお役に立てるよう努力してまいります。最後に、この活動が単に新聞販売店が行うだけのものではなく、皆様方一人一人が普段から、近所に住む一人暮らしの方(お年寄りに限らず)に一声かけ、大丈夫?こまった事ない?など、



社内の使用車両には、<ふれあい一声運動>のマグネットシートが貼ってあります。何かありましたらお気軽に声をおかけください。

少しでも気にかけてあげましょう。何かおかしいと思ったらほんの少し行動を起こしましょう。そうすれば誰かを助けることができるかも?事故・事件が少しでも減っていくかもしれませんよ。。。

(有)大町デリバリーサービス松尾新聞店

住所: 大町市大町2675-7 (ハローワーク大町すぐ近く!)
 電話: フリーダイヤル0120-030553
 FAX 0261-22-8402
 HPアドレス: <http://shimbun.web.fc2.com/>



新入学!! お子様専用の新聞は、朝日の小学生と中学生新聞を!

突然の外出!留守止め連絡を忘れていてもケータイがあれば大丈夫!外出先から留守止め連絡が可能になりました!!新聞の銘柄追加申し込みもできます。QRコードを読み取ってお気に入り登録しておくで大変便利です!

